



『東北圏だより』

λ（ラムダ）プロジェクト展開中 ～津軽海峡交流圏形成をめざして～

青森県

青森県と北海道道南地域は、縄文時代から交流があったとされています。また、明治4年に青森県が設置された際には、当時の檜山郡を含む北海道の松前半島の一部が青森県に含まれていたこと、青森県から道南地域に移住した人が多いことなどもあり、歴史的・文化的なつながりが深い地域です。

さらに、青森から函館までは、1908年に就航した青函連絡船の時代には約4時間、昭和63年の青函トンネル供用開始に伴う津軽海峡線運行後でも約2時間かかっていましたが、昨年3月の北海道新幹線開業により、新青森・新函館北斗間は最速61分で結ばれ、両地域の時間距離は大幅に短縮されました。

青森県では、この北海道新幹線開業は交流人口がさらに拡大するチャンスだと捉え、津軽海峡を挟んだ青森県と北海道道南地域を一つの圏域とする「津軽海峡交流圏」の形成を進め、圏域内の交流の活発化とともに、圏域外からの交流人口

の拡大を図り、圏域の経済発展につなげるため、北海道庁をはじめとする北海道の関係者とも連携しながら「λ（ラムダ）プロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクト名は、新函館北斗駅から新青森駅を通過して八戸駅への新幹線のルートと、新青森駅から弘前駅への奥羽本線のルートの形が、ギリシャ文字のλ（ラムダ）に見立てることができることに由来します。

プロジェクトを進めるに当たりエンジン役となるのが、民間委員で構成する「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」です。両地域の現場で津軽海峡交流圏を元気にしたいという熱い想いで活躍をしている人たちが集結し、委員同志のネットワークを活用しながら津軽海峡交流圏形成に向けた取組を積極的に展開して下さっており、ラムダ作戦会議での出会いをきっかけに立ち上げられた「津軽海峡マクロ女子会（通称、マグ女）」は、先般、「セイカン博覧会」の開催等、地域の観光振興への貢献により「観光庁長官表彰」を受賞しました。また、この10月14日には、本県の佐井村と五所川原市、北海道江差町の3地域の郷土芸能を盛り上げようと、両地域のラムダ委員が「津軽海峡交流圏郷土芸能祭」を開催する予定です。さらには、本プロジェクトのシンボルキャラクター「マギユロウ」も、県内外のイベントに参加し、様々な世代の方々と触れ合いながら、津軽海峡交流圏の認知度向上や機運醸成に取り組んでいます。

今後も、道南地域との連携をさらに深化させ、津軽海峡交流圏を「観光圏」、そして、「経済圏」へと発展させていくことをめざし取組を進めていきたいと考えています。



▲ λ（ラムダ）プロジェクト



▲平成29年6月 三村知事とラムダ作戦会議委員等（津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議にて）



▲平成29年9月 マグ女の知事表敬（「セイカン博覧会」スタートの報告）



平成29年2月 仙台三越のキャンペーン▶
「むつめく TOHOKU」を盛り上げるため、東北6県のゆるキャラ大集合。

東北地域エネルギー・温暖化対策推進会議（事務局：東北経済産業局、東北地方環境事務所）では、例年、次世代層のエネルギー及び温暖化対策に関する意識啓発を目的として、東北各地で開催される環境イベントにブースを出展しています。

ブースでは、啓発パネル展示、パンフレット配布のほか、体験コーナーを設けています。

風力発電機や手回し発電機で発電した電気でミニカーを走らせ、走行距離を競うコーナーでは、自分の力で発電した電気で走る車に、子供たちが夢中になって挑戦し、エネルギーを作ることの大変さを肌で感じてもらいます。

手回し発電機でLEDと電球の発光を比較するコーナーでは、LEDのほうがより少ないエネルギーで発光することを親子で実感してもらいます。

以上のように当会議のブースでは、子供を中心に親子で楽しみながらエネルギーや温暖化対策について考えるきっかけとなるような展示を目指しています。

出展箇所は平成25年度の2箇所から、年々数を増やし、今年度は初めて出展する「青森市環境フェア」を含む5箇所に出展を予定しています。

なお、今年度の出展スケジュールは次の通りです。

| | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 10/ 7 (土) ~ 8 (日) | あきたエコ&リサイクルフェスティバル (秋田市) |
| 10/21 (土) ~22 (日) | いわて温暖化防止フェア (盛岡市) |
| 10/28 (土) ~29 (日) | やまがた環境展 (山形市) |
| 12/17 (日) | 青森市環境フェア (青森市) |
| 1月~2月上旬 | (仮称)「ダメだっちゃん温暖化」宮城県民会議フォーラム (仙台市) |

当会議では、引き続き東北地域におけるエネルギー・温暖化対策に関する情報交換・共有や、エネルギー需給構造に関する実態把握等を図り、地域の地球温暖化対策に関する自主的な取組を促進してまいりますので、各構成機関の皆様にはご協力を賜りますようお願いいたします。



▲風力発電体験コーナーの様子
(やまがた環境展)



▲親子で楽しんでいる様子
(あきたエコ&リサイクルフェスティバル)

都市景観大賞の実施について

東北地方整備局

都市景観大賞（主催：「都市景観の日」実行委員会）は、良好な都市景観形成に向けた取組の普及啓発活動の一環として、毎年実施されている表彰制度です。

都市景観大賞は、「都市空間部門」と「景観まちづくり活動・教育部門」の2つの部門で実施されております。「都市空間部門」は、公共的空間と建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、市民に十分に活用されている地区を対象としており、「景観まちづくり活動・教育部門」は、小中学校等における景観まちづくり教育、まち歩きや景観に関するセミナーなど、景観に関する教育、意識啓発、知識の普及等に取り組んでいる活動を対象としております。

平成30年度の都市景観大賞は、平成29年10月4日～12月25日の間で募集しておりますので、積極的な応募をお待ちしております。

募集内容等の詳細は下記をご覧ください。

→<http://www.udc.or.jp/activities/taisho/H30boshu.html>



「都市空間部門」「景観まちづくり活動・教育部門」

都市景観大賞 募集

景観まちづくり活動・教育部門

平成30年度

H29年10月4日(水)～12月25日(月)

応募締切：H29年12月4日(水)まで

【参考】

平成29年度都市景観大賞 東北からの受賞地区・受賞活動

◆都市空間部門

特別賞（「都市景観の日」実行委員会 会長賞）

→仙台市『東北大学片平キャンパス地区』（東北大学、仙台市）

◆景観まちづくり活動・教育部門

大賞（国土交通大臣賞）

→石巻市『中央一丁目「街並み委員会」～震災を乗り越え、人とのつながりが息づく、歩いて暮らせる安全なまちを目指して～』（石巻市 中央一丁目地区）



【東北大学片平キャンパス地区】
▲中心市街地の一番町通りの突き当たりの北門周辺



【東北大学片平キャンパス地区】
▲片平北門会館と北門周辺



▲「街並み委員会」にて、模型を目の前に、自らの店舗の再建とまちの将来の両方を同時並行的に議論する様子

編集後記

安定した天候が続いていますが、朝晩はだいぶ涼しくなり、秋の訪れを感じます。紅葉が色づき始め、まもなく見頃を迎える時期となりました。昨年は秋を感じる間がなく冬が来たように記憶していますが、今年は多くの秋を感じる事ができるでしょうか。

宮城県内では稲刈りの時期を迎えています。今年の夏は雨の日が多く、日照不足と低温が続いたことから、品質や収穫量が心配されていますが、美味しいお米が多く収穫されることを期待したいと思います。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。